

方剂名

効能

生薬組成

書籍

主治および証

病機

方意

理気剤 降気剤 8

だいはんげとう
大半夏湯

降逆止嘔・補虚調中

半夏 24～30g・人参 9g・蜂蜜 15g

半夏・人参を水煎して滓を去り、蜂蜜を混和して服用する。

金匱要略

<主治>

胃反嘔吐

朝食べたものを夕方に吐く、夜食べたものを朝に吐く、食べるとすぐに吐く、上腹部が硬く痞える、便秘、元気がない、るい瘦などを呈す。

<病機>

慢性病などで胃の気陰が虚し、胃気が通降できない状態である。

朝食暮吐、暮食朝吐、食入即吐など、食事に関連した嘔吐が「反胃」の特徴であり、幽門の狭窄やけいれんが介在すると考えられる(悪性の腫瘍などを疑う必要がある)。胃中に飲食物が停滞するので上腹部が硬く痞え、胃陰虚のため大便秘結して兔糞状になったり便秘する。胃陰虚のために食欲がなく、元気もなく、飲食物が下降せず運化されないののでるい瘦する。

<方意>

降逆止嘔を主体にして、補虚益胃を配合する。

理気降逆、止嘔の半夏が主薬で大量に用い、胃気を下降させて飲食物を腸に下輸する。人参は補気益胃により胃気を回復させ、潤燥通便の蜂蜜は胃陰を補い便を軟化させる。また、蜂蜜は半夏の毒性、燥性を緩和し、潤導を通じて胃気の下降を促進する。

<参考>

本方証(大半夏湯証)の嘔吐は、一般的な胃気逆の嘔吐ではなくて胃反の嘔吐であることが指摘されている。

一般的な胃気逆では食事とは無関係に悪心、嘔吐がみられるのに対し、胃反では食事との関連性が強く認められる。

本方(大半夏湯)は、他の方剤に配合する場合の半夏を約4倍量用い、強力に胃気を通降させる。